

こだま新聞

第160号
平成21年2月

学校保健会2008

今年、1月15日に八郎湯中学校1年生と保護者を対象にした講演をしました。題は「歯肉炎について」。

毎年、4月に中学校で歯科健診をしておりますが、虫歯の発生は年々減少しているものの、歯肉炎になっている生徒の割合が逆に増えているようです。

昨年、一昨年と2年間続けて歯肉炎の検査を重点的に行って来ましたがその傾向は変わっていません。

そこで、保健室の村上先生と相談して、歯肉炎について講演することになりました。講演後に村上先生がまとめたアンケート調査を拝見すると歯肉炎と歯周炎の区別や、歯肉炎を予防するための対策については少し理解できてきたようです。



健康な歯肉



講演で使用した写真をもとに一部ご紹介します。手元がない写真もあって、市販のイラストや歯科雑誌から

す。

写真 (18歳) は、ほぼ健康な歯肉の写真です。腫れや発赤も少なくよい状態だと思います。

写真 は歯肉炎から歯周炎に移行してきている写真です。Aの矢印が歯肉炎です。歯と歯肉の境の歯肉が少し赤く腫れている様子が分かるでしょうか。Bは歯肉炎がさらに進み、両側の歯肉が腫れたためにV字型になった歯肉です。この状態が継続していくと歯肉のすぐ下にある歯槽骨(歯を支える骨)の吸収が起こり、歯周炎に進みます。Cの矢印は歯槽骨の吸収が進んで骨で覆われていた歯の根の部分が出てきている場所です。この状態が改善せず、放置されると写真の状態になります。歯肉の腫れはさらに広がり、歯の表面を一部覆う位まで腫れてきています(Dの矢印)。Eの矢印のところでは膿が出てきています。

の写真の状態では治療を

始めると写真のような状態になります。ここまで顎が痩せてしまったため歯周炎が改善しても元の状態まで回復できなかったのです。

歯肉炎は治療すれば回復しますが、歯周炎は治療しても元の健康な歯肉の位置までは回復することは困難です。の状態まで歯周炎が進んでも痛みを感じることが少ないのも歯周炎が手遅れになる原因です。

今月の行事

- | 2月 |
|---------------|
| 3日 1歳6ヶ月健診 |
| 7日 男鹿南秋歯会 |
| 7日 大潟村国際交流会 |
| 8日 町議会議員選挙 |
| 11日 10区健康教室 |
| 13日 潟上南秋学校保健 |
| 15日 県地域づくり委員会 |
| 「学びあい支えあい」 |
| 22日 大潟村「ミ」ジカル |
| 22日 メビウス月例会 |
| 22日 県歯会代議員会 |